

全珠連(珠算・暗算)検定
文部 段位
科学省 級位
後援
第419回 1月28日(日)施行

珠算方滿

発行所
公益社団法人 全国珠算教育連盟 広島県支部
〒736-0082 広島市安芸区船越南3丁目 25-16
電話 082-823-7535 FAX 082-824-0650
ホームページ <http://web-g.jp/hiroshima88>
発行者 支部長 堀尾政弘
発行人 広島部長 士佐園泰美

本日ここに、公私とも大変ご多用にも拘らず、多数のご来賓をお迎えし、会員の皆様とともに、広島県支部創立七十周年記念式典をかくも盛大に開催できました。ことに對し、まことにありがたく厚くお礼申しあげます。

さて、広島県支部は昭和28年9月連盟誕生とともに広島県珠算振興会を母体として誕生いたしました。発足当時は、広島・呉安佐・尾三・賀茂・佐伯・庄原の7地区、会員数は106名からなり、その後29年に竹原・府中、30年に因島



式辭

支部長 堀尾政弘

田島、32年に上下34年に松永、35年に三次辺と最大で17地区から構成されました。会員数も昭和59年に最高の508名に達しました。以降は毎年2桁で減少を続け、平成18年度には増加対策を実施し一時は減少に歯止めがかかりましたが、現在は11地区46名となっています。受験者数も昭和62年度の12万5千名から現在は2万5千名を割り、一万余名になっています。支部行事においては、発足時から「指導者の資質の向上なくして珠算界の発展はない」との精神で毎年研修会を開催し、脈々と引き継がれて現在は年3回の

研修を行つております。また、子供たちの日々の練習成果の場として年2回の「県大会」を行なうとともに、支部の機関誌として「珠算広島」を年6回発行しています。

「珠算界の運営は珠算人の手で」という観点から、で支部結成時から主独立^{（じゆりき）}を旗じるにした諸先輩の決意とその後のご尽力に厚く敬意を表します。

令和3年7月に支部長の大役に着きましたが、2年余でござりますが、数十年の長きにわたり支部を支えてこられた諸先輩をはじめ木日ご臨席いただいた皆さまとともに、この記

きますことを大変ありがとうございます。嬉しく思つております。

広島県は、会員の強い絆で結ばれた素敵な支部です。七十周年を節目に温かい人情とエネルギーに富むこの支部を大切にしながら、後も算と連盟の発展のため、更なる精進を重ねて参る所存です。何卒、これまで以上に皆さまのご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

終わりになりましたが、物故されました諸先生方のご冥福をお祈りいたしますとともにご来賓をはじめ諸先生方のご健勝をご活躍をお祈り申し上げまして式辞とさせていただぎ

来賓ご芳名				順不同・敬称略	
衆議院議員	支部顧問	岸田文雄			
参議院議員	本部顧問	有村治子			
参議院議員	支部顧問	宮澤洋一			
衆議院議員	支部顧問	小林史明			
福山市議会議員	〃	岡崎正淳			

来賓ご芳名

順不同・敬称略

衆議院議員	支部顧問	岸田	文雄
参議院議員	本部顧問	有村	治子
参議院議員	支部顧問	宮澤	洋一
衆議院議員	支部顧問	小林	史明
福山市議会議員	〃	岡崎	正淳
公益社団法人 全国珠算教育連盟	本部顧問	梶川	眞秀
〃	〃	平上	一孝
〃	理事長	工藤	壽和
〃	副理事長	岡久	泰久
〃	〃	山戸	克弘
〃	理事	前田	珠樹
〃	〃	澤田	悦子
〃	〃	宮城	忍人
〃	〃	末吉	郁雄
〃	〃	長尾	計昌
〃	〃	鈴木	宗一
〃	〃	池田	美鈴
〃	〃	岡田	富士登
〃	前理事	峰	保之
〃	〃	栗栖	貞文
〃	監事	森	廣次
〃	三重県支部長	黒田	聰政
〃	長崎県支部長	福野	敬一
〃	山口県支部長	山縣	博
〃	山口県前支部長	前場	克啓
〃	鳥取県支部長	田中	傑
〃	島根県支部長	福間	紀一
〃	岡山県支部長	池上	修生
〃	検定競技委員会	田中	耕吉
〃	連盟事務局長	高橋	房雄
株式会社 朝日プリント社	専務取締役	山田	繁
株式会社 T a i s e i	取締役副社長	吉岡	康士
吉株式会社 株式会社 ツネイシ	出版	鈴木	瑞穂
吉株式会社 株式会社 ツネイシ	取締役管理部長	石黒	和則

今まで県文部名譽顧問としてお世話になつた次の5名の先生方に名譽段位が理事長より授与された。(敬称略)

名譽設立受旨

また、全珠連工藤理幹事長より「連盟の創立に広島県珠算界の協力があつたこと、今日まで広島県の諸先輩方にご尽力をいただいたことに感謝したい。今後も広島県支部が発展されることを願う」等の挨拶をいただいた。引き続き各種表彰等を行われた。

来賓の祝辞では、支部名譽顧問の岸田文雄氏（代理）、宮澤洋一氏（代理）並びに衆議院議員小林史明氏により、「地域教育における珠算教育の普及発展に貢献された広島県支部の役割は大きい」等述べられました。

A woman with dark hair, wearing a white blazer over a dark top, is speaking into a microphone. She is gesturing with her hands as she speaks. The background shows a banner with Japanese text.

珠算について

感想有村治子
(運営顧問)

「70年の歴史と言つてしまえば簡単ではあるが、これまでの出来事を記録に残し、現在に至つたことはとても大変なこと。そしてこれからさらに続けていくといふことは何をどう残して伝えていくべきか、それもまた大変なことである」と述べられた。

「これからの日本の国力とは?」を問われ各テーブルで話し合い、たくさん意見がでた。

経済力・防衛力・外交力・科学技術力・情報力等が国の掲げている國力。個々の生産消費能力が世代間のバランスを維持し、その判断の集積が國力へ繋がる。それにより養われた情報力を平和的に伝えることが外交力にも繋がり、結果国を豊かにすることになる。

また、AI社会になつても次世代へ繋がる国づくりは数字に強い人材が必要。今も昔も「読み書きそろばん」はまさに日本の基盤であ

ご講演ありがとうございました。

る。次に、連盟機関誌珠算優秀生徒表彰記の内容から「習慣との違いとは?」の問かけがなされた。『何が違うのか、各一ブルで話し合いが行われた』。癡は一見悪いイメージとして使わがちだが、繰り返しわられることで良い習慣が身につき、自身の間力の形成に繋がる良い習慣を身につけるにはどうすればよい習慣がつかない場合どう対処したらよい等を議論し、たくさんの意見がでた。『何度折り返ししても反復によって繰り返しを行い、習慣が大切。それらを珠を通じて培っていることは晴らしく、これからの大好きな力となる』とお話しをいたしました。

物故会員名簿

(平成 22 年度～令和 4 年度まで・敬称略)

珠算教育並びに広島県支部発展の
ために、その生涯を捧げられました
諸先生方のご冥福を、会員一同心よりお祈り申しあげます。

靈明相隔つとも、珠算界をどうか
お見守りください。

私たちちは先生方の残されたご功績を汚すことのなき
よう今後一層の努力をお誓い申し上げます。



合掌

支部創立 70 周年記念祝賀会

記念式典終了後、引き続き祝賀会が、梶川本部顧問の挨拶そして山戸副理事長の乾杯の音頭により開会された。

アトラクションには地区からたくさんのお出でがあり、参加者ともども宴席は盛り上がった。最後に春名副支部長の“お礼の言葉”により閉会した。

以下、サンソープ写真とともに祝賀会の楽しい模様を振り返ってみましょ。



来賓者席や地区ごとの会員席も、宴の経過とともに盛り上がりをみせる



